

寄稿

人口減少社会と

地方都市の活力再生

90

株式会社さくら都市総合研究所

清水 秀幸
主席 研究員



17 都市の景観を
考える

また、市街地にあっても、長野駅周辺を中心に民間資本によるまち並みが整備され、とりわけ長野駅から善光寺に至る表参道―都市軸―とその周辺は、近代的なビル街と歴史を感じさせるまち並みが一体となった長野市の象徴的空間を造り上げています。

しかし、その都市軸たる1・8 km余りの表参道も、「風景」によるものとの2つに分けることができる。風景とはあくまで時代のニーズの中で自然発生的に誕生したものであり、そのまちの将来を見据えたランドスケープ

プによる修景とは一線を画すべきものである。

言わずもがな、表参道の軸線上の風景と修景の分岐する境目は、新田町交差点と言うことになる。

読者もお気づきのように、この軸線上にある同交差点以北は、電柱が埋設され、沿道には緑がバランスよく配置され、石畳の敷き詰められた歩道も含めた景観は、善光寺へのプロローグとしての人々を引きつける修景を造り上げているが、そこから一步はずれると、まだまだ修景とかけはなれた空間が目飛び込んでくる。

この空間が風景なの

である。

修景とは、一つのまちづくりのコンセプトによって、人為的に造形され、完成したものであり、今この時代の最高のランドスケープ（風景・景観）の実現である。

（続く）

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか6委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長



表参道から一步入った市街地通り